

第58回 令和7年7月7日（月）

安全と安心について。

7月5日は結果的に日本に大災害はありませんでした。（トカラ列島で大きな地震がありましたが津波もなく、人的被害も出ていません。）

またいずれ同じような流言は出てくるのですが、この経験を覚えて冷静に対処してもらえればいいと思います。

ただし、だからと言って安心していいかというとそうではありません。南海トラフ地震は今後30年においてかなりの高確率で発生すると言われています。明日起きても不思議ではありません。

さて、いま選挙の演説で「みなさまの安全・安心を守る」というフレーズをよく耳にします。そこで私が思うのは、安全と安心は全く別のものだということです。

安全というのは客観的に判断できるもので、政府や自治体、学校などができる限り保証しなくてはならないものです。その意味で「安全を守る」という言葉は正しいと思いますし、我々も含め常に意識していくべきことです。

しかし「安心」というのは主観的な個人の感情です。例えば模擬試験でいくらA判定が出ても絶対に安心だとは思えないはずです。何が起きるかわからない。だから日頃の備えを怠りなくすることが大切になります。

大昔は至る所に生命の危険がありました。「安心」してしまうことは死の危険と隣り合わせになります。心のどこかで警戒し、リスクに備えておくことが生き残るためのポイントです。

私たちはそうして生き残ってきた人間という種の子孫です。生き残らなかった種はつまり滅びている種であるはずなので、私たちのDNAは100%安心するということはできずに少しでも不安を感じるようにできています。

「安心」できることは理想だと思いますが、常に「安心」せずに災害やリスクに「備える」ことや、病気になるように予防することが自分を守ることに繋がります。

災害の際には「自助・共助・公助」と言われ、行政などが助けてくれるのは3番目です。1番目は「自助」です。自分で自分の身を守る必要があります。

登下校中や塾の行き帰り、どこに逃げたらいいのか、安心せず日ごろから考える癖をつけてほしいと思います。